

是れ實に資本家制度の下に於ける労働階級の運命なりとす。故に吾人は宣言す。

吾人は只だ之れを機として、労働階級の解放に向つて、一層の自覺を進め、一層の努力を爲さんことを期す。

一、尼港問題に就いて 尼港に於いて多政邦人が生命を失ひたるは固より深き同情に値す、然しながら、それがために更に一層多数なる同胞の生命を危険に陥し、加ふるに巨額の軍費を一般國民に負擔せしむるは吾人の堪へ得る所に非ず。若し今後、再び斯くの如き不祥事を生起せしめざらん欲せば、徹底的に資本的侵略主義を一掃するの外なし。彼の國威國光の美名の下に、熱狂的に出兵占領を云々するが如きは、徒らに軍閥の走狗となるに過ぎず。又吾人は斯くの如き問題に就いて、單に現政府の責任を糾弾して満足し得る者に非ず。故に吾人は宣言す。

吾人は出兵に反對す。吾人は只だ資本主義と侵略主義と軍閥主義との打破に向つて進まんことを期す。

大正九年七月六日

日本印刷工組合 信友會

### 信友會演說會中止理由

右宣言趣旨に依り、來る七月六日演說會を開催する爲め啓明會の下中彌三郎氏を通じて青年會館を借受けたる所、日本労働黨員片岡軍二氏本會に何等交渉なくして、本會の諒解を得たりと稱し、下中氏をして破約せしめたり。之より先き本會は日本労働黨にても同日に青年會館に於て演說會開催の意あるを知り、本會員桑原鍊太郎氏をして、日本労働黨總理山元龜二郎氏を訪はしめ、其の諒解を求めしに氏は快諾せられたり。茲に於て本會の準備完く成るに及んで、忽ち日本労働黨より前約を破棄され、準備委員は再三交渉をなして其の反省を乞ひしも之れに應ぜず。竟に演說會中止の止むなきに至る。依而之れを印刷に附して社會に公表す。